



ライオンズクラブ国際協会
336 A地区 2 R - 4 Z

西条

2009年12月号
No. 393

今月のTOPiX

2009-2010 年度

SAIJO LIONS CLUB



第16回 餅つき奉仕 大好評!



国際会長 エーバハルト・J・ヴィルフス

モットー 「WE SERVE(われわれは奉仕する)」

テーマ 「MOVE TO GROW(個人的成長と会員増強)」

336 - A地区ガバナー 武久一郎

スローガン 「ライオンの未来に、情熱と夢をもってウィ・サーブ」

キーワード 「初心」

西条ライオンズクラブ会長 寺尾信司

スローガン 「半世紀の歴史に向かい WE SERVE」

キーワード 「前進」



第16回 餅つき奉仕

『 星の里 』編～

環境保全・保健福祉委員
山内 浩二



12月5日、初めて餅つき奉仕に参加しました。
 天気もよく、戸外でもち米を蒸していたら、ぞくぞくと施設（星の里）の皆さんが集まってきて、ライオンズメンバーに「おいちゃん・おいちゃん」とすり寄ってくるんです。今回が16回目だそうです。皆さんライオンズのメンバーを覚えていて、楽しみに待っていたんですね。来年来たときは、僕も覚えていてくれるかな？
 ところで、餅を杵でつくのは小学生以来だからほぼ40年ぶりの経験でした。昔はどこの家でも正月には家族総出で餅をついていたんですよ。大変なつかしく思い出しました。あっという間の時間でしたが、ワイワイ言いながら楽しく餅をつくことができました。また、入居者の方々からお礼の言葉と笑顔を頂き、すがすがしい気持ちになり感激しました。人に感謝されるっていいですね。
 これがライオンズの奉仕精神と言ってしまえばそれまでですが、毎年実施している訳がわかりました。餅をつくことで幸せな気分させてもらって、こちらがお礼を言わなくては。星の里の入居者の皆さんに感謝！！！！



『 ゆるぎ荘 』編～

環境保全・保健福祉委員長
高橋 学



今回、餅つき奉仕に初めて参加し、懐かしい光景を目の当たりにしました。
 開会に先駆け、寺尾会長より挨拶がありました。
 「毎年恒例となりました年末のお餅つきを、西条ライオンズクラブのメンバーに加え伊予銀行西条支店の若手ボランティアメンバーで実施します。
 近年、見る機会が減った杵と臼でつく『つきたてのお餅』を味わいながら、昔懐かしの風情を楽しんでください。」会長の挨拶にメンバーからは、雄叫び（ライオンズローア）が聞こえました。続いて施設より十河事務長より歓迎の挨拶を頂き、いよいよ開始です。
 開始予定の9時半には、施設の方の手際よろしく「もち米」は蒸しあがっており、すぐさま餅つきが始まりました。お餅は、石臼の(A)と木臼の(B)の2ヶ所に分かれてつかれ、大変賑やかな餅つき大会です。餅つきのつき手に合わせて、入所者の楽しそうな掛け声が飛び交う中、(つき手の主力はボランティアさん。)約一時間半程にてつき終わりました。
 私の記憶では、餅つきは前日からの準備、朝早くからの支度、一日がかりで餅をつき、道具の後片付けが冷たく辛いイメージでした。今回の餅つきは準備や片付けを“ゆるぎ荘”にてしていただき、本来の餅つきの大変さが少しも感じられないものでした。本来の奉仕活動に、今一物足らなさを感じながら終了した餅つき奉仕でした。



～ 12月第2例会（第1156回）～



クリスマス家族例会

出席計画委員 盛實正人



12月22日(火)、ドリーマーベルフォーレ西条にて「年末家族例会(クリスマス会)」が総勢約80名の参加で盛大に行われました。今年は、惜しくも「例会純出席100%達成」にはなりませんでしたが、当委員会植木Lの司会、花山Lの企画進行のお陰で、あっという間の2時間30分でした。中でも、「ご兩人さん出番ですよ」では8組のご夫婦にご協力頂き、夫婦仲を再確認させて頂き、奥様には出会った頃を思い出して頂けるよう「山形金賞ひとめぼれ」がプレゼントされました。

また、3人の現役愛大生のマジックショーでは、釘づけの子供さん、そして初ステージならではのハプニング後、舞台裏で肩を落として落ち込んでいる男子学生の後ろ姿がとても学生らしく、新鮮さがありました。今回、参加して頂いた奥様全員に「豪華海鮮セット」が、子供達にはサンタの体系にそっくりな原委員長からクリスマスプレゼントが手渡され、子供たちの喜ぶ顔が印象的でした。

きっと2日後のクリスマスには本物のサンタさんから子供たちにプレゼントがあったことでしょう。



参加者全員集合



「ご兩人さん出番ですよ」



環境委員会出席賞 97.7%



マジックショーに興味津々



初々しい ジャグリング



すっかり仲良しになりました



サンタさんと「また会う日まで」



大きなブーツのプレゼント



子供達に大人気のサンタ1号

会員短信

「 今のときこそ 」

L . 塩崎己年夫



皆さん今日は、毎朝の寒気が身にしむ季節となりました。

早いものでライオンズクラブに入会してから30年が経ちました。今日まで良き先輩、良き仲間恵まれて、大我なく、楽しく有意義に過ごせて参りました事、心より深く感謝致しております。

昨日、広報委員会から原稿依頼がありまして、何を書こうかと悩みましたが、思い切って、ライオンズとは少し距離を置いた観点で40年間の生活の中で小さなメモ帳にメモしてきたことで、特に気になる事柄を抜粋してみました。この手帳は仕事を始めてから40年来、使い切っては毎年新しくして、持ち歩いているもので、新聞、専門誌を始め、経済誌や会社報、又、講演などで目に留まったものとか、仕事で会社にお伺いした折、社訓などが目に入ったり、人と話をしている気付きしたことなどをメモしたものです。最近の手帳を振り返って特に目に留まる文章を引き抜き、現在の経済環境の中で、さまざまな会社の経営者の方がどのようなことを、又、何を実践されているかということを書き出してみました。

この手帳から拾い出した文章が少しでもお役に立てばと思い、思い切って投稿しました。このつたない原稿が、皆さんに少しでも刺激に、又、気概になれば幸いです。

最大の仕事より最高の仕事を。

取れば取られ、与えれば与えられる。

すべて欲しがらる物、すべて失う。

懸命に働く者、決して人生は裏切らない。

上見て励め、下見て暮らせ。

何でも人並み以上に成ろうと思えば、人並み以上の努力が必要である。

見て学び、聞いて学び、試験に学び、研究し進め。

仕事は、学問、学歴ではない様に、仕事においては、普通の事を、普通以上の情熱を持って普通以上の事をやり、段取りを考え、知恵を出し、アイデアを出し、人がやらない事、嫌がる事を積極的に勇氣を持って実行する事によって、仕事のスピードアップを図り、繁栄・発展・成功・幸せにつながるものである。

景気の回復を手を拱いて待つのではなく、積極的に働きかけることが必要である。

改善、改革の余地はまだまだあります、しっかり自分の使命感を自覚し目標に向かって前進しましょう。

負け組の共通ポイントは物事の先送りである。シンドイ、面倒くさいからだ。代表者が強固な意志信念で仕事を引っ張って行かなくては改革は出来ない。

バブル経済で人が甘やかされ、ガッツさがなくなったせいだろうか、英知と努力の日本人の気概を取り戻さなければならない。



故郷の近くの沈下橋で



40年間使った小さな手帳

現在の経済環境は、息の詰まるような状況だが、自分に与えられた責任と役割をきちっと果たし、粘り強く、辛抱強く、無駄を無くし、見栄を張ることなく頑張りたいものである。

終わりに、皆様のご健康とご多幸、ご活躍お祈り申し上げます。

「^{ひっきょう}畢竟 何が大事ぞ？」

西条LC 神野 顕彰



何かと問題はあったが、今では年末の一行事として恒例化の、この一年を象徴する漢字は『新』であった。新政権、新型インフルエンザ等々と今日まで予想だにしなかった展開が、世の驚きと、とまどいを生んでいる。そして現下の不景気風、まさに人心は右往左往しているのが実状であろう。その混迷の基にあるのは、「人生なにが大事ぞ？」の意識が現代社会の多様な価値観の中で、埋没しきっている気がする。

その昔、曹洞宗(禅宗)開祖の道元禅師が中国にて修行中のことである。先人のあらわした本を読みふけていた時、老僧が現われ道元禅師に問う。

「何の用ぞ？」・(なんの為にそうしているの?)と、道元禅師は答える。「今、私は禅を修行中で、先人が書き残してくれた貴重な本を読んでいます。」

更に老僧は問います。「何の用ぞ？」道元禅師は答えます。「故郷の日本に帰って禅の教えを広める為です。」と。しかし更にその老僧は問います。「何の用ぞ？」道元さんはしばらく思案した後、答えて言います。「日本の国の人々に利益をもたらし、幸福になってもらう為です。」

それでも尚、老僧は大きな声を出して問います。

「畢竟 何の用ぞ？」・(つまるどころ、それはなんの為ぞ?)

道元禅師は、重々思案するのだけれども、遂に答えることができませんでした。

後になって、この問いが道元禅師が迷いから脱却し、悟りをお開きになる機縁となったことを、自らがあらわした「正法眼蔵」という書物に書かれてあります。

皆様はどう答えられますか？道元禅師の答えには、誰が考えても迷いのない優等生の答えのように思われるはずです。私も多分そのように答えるはずですし、もっとチンプンカンプンの迷答をするでしょう。

私達は今この世の中で生きています。政治がどうだ、経済がどうだとか。新型ウイルスが、タイガーウッズがどうだとか、松井選手がどうだとかと言いながらそれなりに懸命に生きているはずですが、それは、家族のため、世の為、人の為とか言いながら・・・

最後に問う。「畢竟 何が大事ぞ？」

答えて言う。「つまるどころは、自分の命が安心し、立っていけるといふ為なり。」

(自分が安心立命し、その覚悟がなければ、世の為、人の為といいながらどんなに頑張っても、その結果は大したありませんよ・・・)

ということなのであります。



もって、小生の自戒としたいこの年の瀬である。

『薬物乱用防止教育認定講師養成講座』を受講して

環境保全・保健福祉委員会委員長 高橋 学

去る、11月21日(土)13時より、「ウェルピア伊予」に於いて上記認定講師養成講座が実施され、受講してまいりました。

【講座は、下記のとおり大きく四つに分けた講座でした。】

1) ビデオ講座

薬物乱用防止教育ビデオ

「みんなで学ぼう！薬物乱用防止。ダメ。ゼッタイ。」

2) 基礎講座

「薬物乱用と身体への影響(医学博士)」

3) 専門講座

「薬物犯罪等の現況(県警察本部)」

「県の取り組みと課題(県保健福祉部)」

「薬物乱用防止教育の現状(県教育委員会)」

4) 実践講座

「ライオンズクラブ国際協会薬物乱用防止の実践活動(講師養成講座講師)」

講座の流れは、医学的な見地からの「脳や身体全体の機能に与える悪影響。」また、県警本部、教育委員会などからは、「薬物乱用の現状(検挙・補導人員など)」や「教育現場の現状(小・中・県立校での実施状況など)」説明がなされ、最後にライオンズクラブ国際協会薬物乱用防止の実践活動状況の説明と講師を行う際の注意点等でした。

要約すると、「薬物乱用とは?」「覚せい剤などの違法薬物を、たとえ1回だけでも使用すれば乱用となる。また、通常の医薬品は「病気や傷の治療」に使用するが、こうした目的以外に使用すれば乱用となる。」といった、基本的な説明に始まり、この薬物乱用がどれほど身体に悪影響を及ぼすか、例え1回でも薬物を使用すれば断ち切れなくなり、最後には中毒状態に陥り破滅する。即ち、乱用者自身の間崩壊に加え、家族や社会の崩壊につながっていくことである。そのためには、未然防止の教育が大切である。薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ。」の合言葉の意味を痛感し受講を終えました。

しかし、いろいろな角度からの「薬物乱用の怖さ」や「薬物乱用未然防止の重要性」を感じましたが、学校関係者に対し、「薬物乱用防止教育」に伺いたい旨を申し込む(薬物との接点を持たない者が、いきなりの教室(45分授業)実施)には、無理が有るなと思いました。

【編集後記】

2009年の(今年の漢字)は、(新)であるそうです。理由は、新政権の誕生、スポーツ界の新記録、新型インフルエンザの猛威、新制度(裁判員制度、エコポイント制度、エコカー減税など)の導入、そして新しい時代への幕開けということです。我が家の(今年の漢字)は・・・(進)です。さて、広報委員会の今年度の活動も半分をすぎました。お忙しいところ、無理を言って原稿や写真をお願いした皆様、本当にありがとうございました。感謝します。

来年もよろしく申し上げます。

P R ・ 広報委員 清水泰雅



発行所 ライオンズクラブ国際協会 336A地区 2R4Z
西条ライオンズクラブ
事務局 〒793-0027
西条市朔日市 779-8
西条商工会館3F
TEL (0897) 56-3980
FAX (0897) 56-9251
E-mail saijo-lc@abeam.ocn.ne.jp

発行者 会長 寺尾信司
幹事 野間賢次郎
PR・広報委員長 土居恵三
編集委員 清水泰雅 ・ 西原 功
加藤 茂 ・ 安藤憲正
塩崎秋義 ・ 伊藤隆治
例会日 第1・第3火曜日
例会場 黒猫レストラン
印刷 西条ライオンズクラブ事務局